

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(4/8)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
次世代型農業生産構造確立特区 (山口県、光市、柳井市、田布施町)	3.6	4.5 <u>進捗度</u> ・中心経営体への農地集積 129% ・再生可能エネルギーの利用促進 125% ・経営の多角化等による新たな雇用の確保 142%	3.2 <u>財政支援等</u> ・国営緊急農地再編成整備事業 ・鳥獣害防止対策交付金 等 <u>地域独自の取組</u> ・農業経営体育成支援事業 ・農山漁村女性企業育成事業 等	3.3	<ul style="list-style-type: none"> すべての評価指標において実績値が目標値を上回っており、望ましい状態に到達していると言える。反面、数年前にすでに最終年度の目標をクリアしており、低めの数値目標だったのではないか。 中心経営体への農地集積は、一般的に農地集積率が下がるということは考えられない中で、どのような事情があったか明記すべきである。 経営の多角化等による新たな雇用の確保について、平成29年度の雇用者の伸びがとりわけ大きい(12名)ことは評価できる。 取組を通じてどのように地域活性化がなされたのかが、報告書から読み取れない。農地集約やフォアスの導入で米作の生産性が高まったことは推測されるが、他の園芸作物等についても定性的評価でもよいので記述してほしい。 全体として「次世代型農業生産構造」の意味する内容が不明瞭である。最終的にどのような農業生産構造を実現しようとしているのか。中心経営体への農地集積率が70%を達成した時の農業経営体は集落営農なのか、それらを束ねた農業法人連合とはどのような経営体となるのか示してもらいたい。